



からしだね

2013年
7月号(485号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野治雄神父
協力司祭: デニス・マックゴワン神父
住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624
URL(ホームページ) :
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



一階正面に刻まれている聖句
イエスは大声で言われた
『渴いている人はだれでもわたしのところへ来て飲みなさい』
(ヨハネ七・三七)

巻頭言	2	財務委員会から	3
北摂地区中高生一日交流会 ..	3	ガラスケースの言葉	3
日曜学校遠足	4	日生・池田合同黙想会	5
父の日のミサ	7	からしだね俳壇	8
宝塚黙想の家から	9	信徒総会	9

表紙写真: 鹿児島市 ザビエル教会 提供: 新穂寿子

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

2013年6月16日年間第11主日 説教より

「あなたの罪は赦された」

染野 治雄神父

「あなたの罪は赦された」。このとき、この罪深い女になにが起きたのでしょうか。

今日のイエスの話はわりとわかりやすいのではないかと思います。多くゆるされたから、多く愛することができる。先にゆるされているから、より多く愛することができる。たしかに、先にゆるされているから、わたしたちは人を愛せますし、ゆるすことができます。ただし、そこには、どちらが先かという順序とかやり取りのようなものが入ってしまうような気がします。だから分かりやすいのかもしれない。

しかしそういう人間的な考えを超えて、人はどのようにして救われるのか。その答えが「あなたの罪は赦された」というイエスの言葉にあらわれていると思います。なぜ、わたしたちがキリスト教を信じるのか。なぜ、わたしたちがイエスの教えに希望を置いているのか。イエスの言葉にはその答えがあります。

よく、わたしは罪びとです、なんて言います。確かにわたしたちは、時々悪いこともするけれど、根っからの悪人ではありません。良いこともたくさんしています。絶対天国へ行けるといふ確信があるかどうかはわかりませんが、それでも地獄へ行くほど悪いことはしていないし、煉獄で償いをすれば天国へ行けるだろう。多分わたしたちはそんなふうに考えながら、現実を生きているのではないのでしょうか。だからそれなりに安心してこの世を暮らしていけるのではないかと思います。

ところがです。今日の罪深い女の人はどうでしょうか。自分はまったく神様から切り離されていると思っていました。生きても死んでも、そこには救いも希望も何もありません。そういう人がどういう気持ちで生活していたか。今のわたしたちの持っている罪とか救いの感覚からは想像できないような、人間としての誇りも尊厳も希望も何もない。かといって、死ぬことすらできない。ただ、絶望のなかで時間が過ぎていくのを待っている。そんな中を生きていた一人です。イエスの時代にはそういう人が多くいたのです。

そんな人にとって「あなたの罪は赦された」と言う言葉は、どのように聞こえたのでしょうか。あなたの罪は赦された。安心して下さい、あなたは天国へ行ける。このイエスの宣言がどのように心に響いたのか。イマジネーションを大いに働かせて読んでみるのが大切です。罪の闇のなかで光がまったく閉ざされていたこの女性にとって、イエスの言葉がどれほどのものであったか。死んでいるのに等しかったこの女性をイエスの言葉がまったく新しい命に立ち上がらせました。

今の時代、今の言葉で言えば、へこんでしまっている人が大勢います。そんなとき、強く前向きに生きようと言われます。いろんな人がいろんなところで、自分はこうして成功したとか、失敗から立ち上がったのだという体験を語って励まします。そして、それなりにみんな勇気をもって頑張る元気が出てきます。よいことだと思います。といっても、いつも前向きでなければならぬことは、そんなに楽なことではありません。そんななかで疲れてしまうこともあるでしょう。みんなが同じようにうまくいくわけではありません。そういうなかで、希望を見出せない人たちが大勢います。

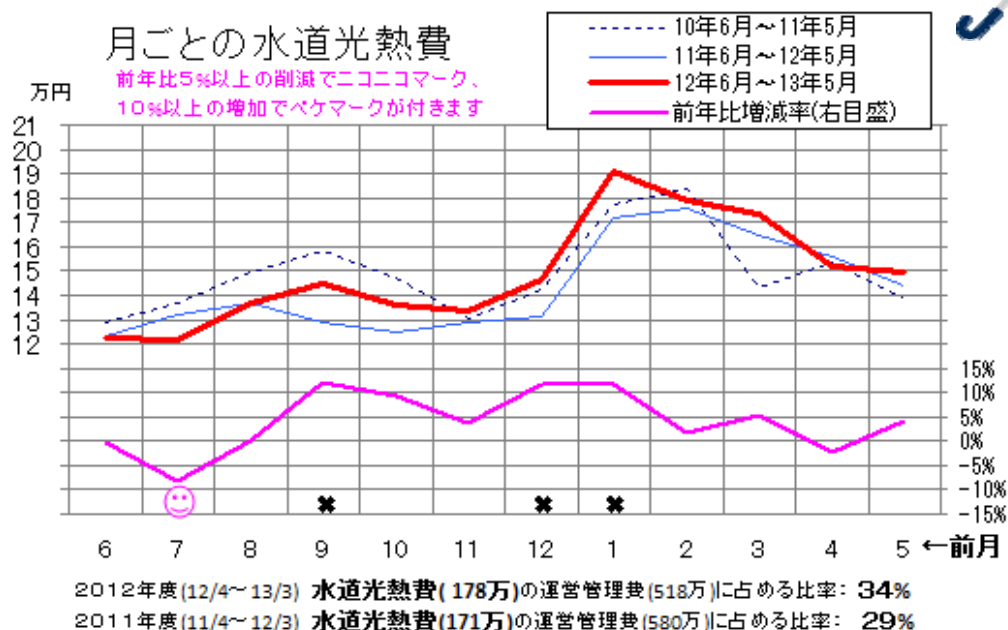
そんなとき、本当に人を生かすのはキリストの言葉だけです。**あなたの罪は赦された。あなたは天国へ行ける。あなたは神様から愛されている。**何度も聞いた言葉かもしれませんが、しかし、この言葉に神の愛の力が隠されているのです。この言葉がわたしたちを立ち上がらせます。苦しみ、挫折、喪失など、どんな苦難のうちにあってもイエスの言葉が希望を与えてくれます。他にどんなきれいな言葉があっても、救いをもたらすのはイエスの言葉の他にありません。この言葉を求めている人がいます。だから、わたしたちはキリストの言葉を伝えてゆくのです。あなたの罪は赦された。この言葉がわたしたちを救います。人間を救います。すべての人が神の愛を知ることができますように。

財務委員会から

★5月度の光熱費

電気代 115,609円 ガス代15,809円

《直近1年間の光熱費の推移》



5月度は前年比プラス8パーセントでした。

電気代が5月からは値上げになっていますので、その影響もあるかと思いますが、今年は暑くなるのが早くて、すでにエアコンも使用されているのだと思います。

熱中症にはご注意くださいですが、必要以上に冷さない、またつけたら必ず消すなど、一層の節電にご協力をお願いいたします。

- ・トイレの暖房便座は消しましょう。
- ・エアコンをつけた方は自分が消さない場合は必ず誰かにお願いしてください。消し忘れにつながりやすいので、お気をつけください。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします！



北摂地区 中高生一日交流会のお知らせ

北摂地区の中高生一日交流会が開催されます。中高生は奮ってご参加ください。

1. 日時：9月8日(日) 13:00~16:00
2. 場所：茨木市中穂積 礼拝会修道院 (研修委員会)

7月ガラスケースの言葉

わたしの愛にとどまりなさい。
わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように。
ヨハネ15・9-10

日曜学校で遠足に行きました（6月2日）

当日は朝8:30池田駅集合で、教会に急ぐみなさんと何人かすれ違いながら、改札口に向かいましたが、全員遅れることなく揃って出発できました。



環状線に乗り換え、10:00のミサに5分前に滑り込みひと安心。当日は初聖体式があって、お祝いムードの玉造教会でした。

遠足はこども13人、大人12人の25人の団体さん。聖堂の前の方の一角を占めて存在感があったのでしょうか？ミサ中神父様は何度となく、池田教会の日曜学校のみなさんをご紹介くださいました。

聖堂前の巨大な和風聖母のモザイク画と、両脇の細川ガラシャ、高山右近を前に、門リーダーのバスガイドの様に流暢な説明を受けながら、日本の歴史と教会の直接的で意外な関係に子どもたちは驚いていました。

雨だという天気予報に反して、意外に天気も良くなって、大阪城でおおきな石垣を前に風を感じながら食べたお弁当は、いつもよりおいしくて、そのうち「大お菓子交換会」と化し、一行は家族のような一体感のなか、大人も子どももなんとも言えない楽しい気持ちになって、無事ひさしぶりの日曜学校遠足を終えることができました。

子どもたちは楽しかったですか？また遠足に出かけたいですか？スタッフ、リーダーの方々、くたくたになりましたね。これからも日曜学校は家庭だけでは難しい縦軸の信仰教育を担うとともに、横軸の兄弟のような共同体を実現するために、楽しい企画を考えて行きたいと思います。

ご一緒頂いたご父兄のみなさま、また信頼して大切なお子さんを預けて下さった方にも感謝します。みなさま次の世代の教会を頼もしいものにするために、引き続きご支援ください。よろしくお祈りします。
(日曜学校リーダー)



日生・池田合同黙想会（5月31日）

若葉の眩しい売布・宝塚黙想の家で、47人をご指導下さいました。5月は聖母月であり、当日は聖母の訪問の祝日でマリア様の信仰についても新しい見方を教えて下さいました。ご指導下さった聖パウロ会の澤田神父様は、5月29日まで佐世保で9泊10日の黙想会指導を終え、30日は東京神学院で講義をし、31日は朝早く東京から空路大阪まで、日生・池田合同黙想会のために、超過密スケジュールの中お越し頂きました。

以下は、当日参加された方々の感想です。感想は無記名で掲載させて頂きます。
(研修委員会)



《感想1》

「悠々自適はあきらめた」

澤田神父様の黙想会のテーマは『信仰という賜物をはぐくむ』でした。お話を聞いて次のように理解しました。『信仰が与えられることは、ありがたい無償の賜物である。だが初めて与えられた時に、すべてが与えられるのではない。理解も成熟も不十分。その後、忍耐を重ね求め続けて、ついに神様の導かれるところに到達。かくて信仰は完成される』。神父様は具体例を聖母、太祖、使徒について説明されました。

神と共にいるのは「居心地悪い」

まずアブラハム。神様から「お前の国、父の家を離れて、私が示すところに行け」と言われました。彼は行く先も分らぬまま出発しました。神様と一緒にいるのは、時には「居心地の悪い」こともあります。特に現代人には。現代人が強く求めるのは「予定」「スケジュール」。これがないと不安なのです。ところが神様と一緒にいても、往々「予定」を教えてくださいません。アブラハムも同じだったでしょう。でも彼には「不安」を補う「信頼」がありました。彼は神様を信頼しました。「居心地が悪いが信頼する」——ここに信仰の神秘がある、信仰の始めには、これが必要——と神父様は説明されます。聖パウロについては別の話し方をされましたが、私は彼の場合も同じではないか、と思いました。キリスト様が聖パウロに出現された時、彼は「主よ、私はどうすればよいのでしょうか。」と尋ねました。その時も「居心地の悪さと信頼」が、心に同居していたと思います。

聖パウロと聖ヤコブの「信仰」

さて聖パウロは『人は律法の実行ではなく、イエス・キリストへの信仰によって義とされる』と説く。一方聖ヤコブは『兄弟姉妹が着る物も食べる物もない時に、何も与えないで、口先だけで「ゆっくり休んで腹一杯食べなさい」と言っても何の役にも立たない。死んだ信仰だ』と説く。

この二つの教えを、漫然と聞く時、私たち信徒は、聖ヤコブの方が正しい、と思いがちですね。日本人の精神の奥底に、二宮尊徳流の克己精進推譲の思想が、強く流れているからでしょうか。澤田神父様は、次のように説明されました。

『パウロの言う信仰とヤコブの言う信仰とは、意味が違う。パウロの方は、この黙想会で扱う「初期の段階の信仰」だ。一方、ヤコブの方は「育まれ成熟した段階」。成熟した段階の信仰では愛徳は不可欠』。

極めてゆかしい聖書の解釈

神父様は、聖母について説明された時、私には初めて聞く見解を示されました。エリザベトを訪問された場面です。教会はこの段を、愛徳の発露として解釈しています。喜びのロザリオ第二の黙想のように。神父様はそれを十分認識しながらも、次のように説かれました。「福音書には、そのことは、直接には書かれていない。エリザベトは、困難を伴う高齢出産。聖母は初産の経験もなかった。聖母がエリザベトの世話をしようとしても、あまり役立たなかつただろう」。では聖母が滞在された三カ月の間、何をなさつたのか。

「お二人は三ヶ月間、ずっと神様を賛美し続けられました」。この解釈、実に斬新、しか

し極めてゆかしいものと、私には思われました。

定年を境に生活スタイル一変

では、この黙想会にあずかった私は、どのように生活に生かすべきでしょうか。半世紀も前に受洗しましたので、若い頃の事は忘れましました。最近の事を考えてみます。私の信仰の端緒に当たるのは、会社勤めの頃でしょうね。家族を養うため、また本能的な義務感にかられて、無我夢中で仕事に突進しました。結果、ある種のパターンができた。日曜には眠い目をこすって教会に行く。「サボるなよ」適当に子どもらに檄を飛ばす。教会行事の参加は必要最小限に。献金も適当に…。

毎日、息切れの連続でした。ところが定年後はパターンが激変。「さあ悠々自適を楽しもう」——確かに初めは、ほんの少し開放感を満喫しましたね。家内と海外に巡礼ツアーさえ行きました。

檻をうろうろ、動物園の熊

そのうち様子が変に。歯がひどく痛み七転八倒。医師を転々。内臓がしくしく痛い。目が霞んで、看板、道行く人の顔、駅の時刻表や切符の値段が見えにくい。自分の挙動に確信が持てず、ひどい自信喪失。「老人性鬱になった」と言い出す。掛かり付けの内科医師が、家内に聞いてくれました。「専門医に診てもらっているのか」と。家内の答えは「いいえ、自称ですわ」。家族が病気になり、それがこちらにも転移して自称老人性鬱がさらに悲惨深刻に。つい飲み過ぎ。最低の衣食住は保証されている結構な御代ながら、生き甲斐がない。動物園の檻に入れられた熊のよう。熊も、山野を走り回って、自分で餌を探す方が、オリの中で囚われの中、餌をあてがわれるより、生き甲斐があるのでは…。

死ぬまで神様にしがみついて

そうだったのか！ この黙想会に与って、改めて確認しました。自分には「悠々自適」は許されていないのだ。まだラクしようとしてもダメよ。平均寿命まで生きるとしても、あと10年もない。長くはないだろう。神様にしがみついて、死ぬまでいこう。ぶつぶつ文句を言いながら……——かくは気づいた次第です。

物思いに沈んでいる私を見て、家内は「アホちゃうか。勝手に悩んでいるだけやん」

《感想2》

①マリア様にして下さった同じ神様が同じ様に働いて下さっている。

②祈り続ける。

このことが印象に残りました。

《感想3》

マリア様の事についての話、大変良かった。

《感想4》

信仰は育てていくものということが胸に響きました。求め続ける、たたき続けることが大事ということ、自力でなく神からの賜物であることとか、いっぱい心に残りました。これからの道しるべにしたいと思います。

《感想5》

- ・信仰を貫く人は、その人が強いのではなく、神が力を与えた人。
- ・自分が罪を乗り越える力はないが、神の赦しを受け入れる事が出来る。
- ・主役は神であり、人ではない。
- ・マリアは特別な女性ではなく、小さく、つましいから神に召された。
- ・信じる力、生きる力は神から来る。
- ・倖いな人は神の救いに預かる人。

目からウロコの貴重なお話を伺いました。

《感想6》

神様は苦しみだけでなく、信仰という喜びをあたえてくれたと今日気づきました。



《感想7》

御名を賛美申し上げます。御言葉に信頼しているはずなのに、問題視すべきと自身が思うと、その事柄に捕われてしまって、毎日御恵の中に生かされ溢れんばかりの御恵の方に絶えず心に向けることをしていなかった自分に気付かされました。独り子を十字架につれられ私の罪を贖って下さった御父の愛を深く心に刻み、また回心して踏み出すことができました。御愛に包まれたこと感謝しております。御愛を以って生きられる事、大きな喜びです。ありがとうございます。

《感想8》

メニユエル氏病を50才台から度々わずらいました為、聴力障害者になっていましたが、補聴器のおかげで神父様のお話は、はっきりきこえました。御講話の時もお茶の時も、マイクとかお声の大小とかの問題ではなく、神父様が私達に伝えたいと思われまことを、聞く者達の程度に合わせて理解出来るように話される、その御心遣いがあったからだと思えます。92才にもなった私にも神父様が私達に伝えたいと思われたことは、私でも私なりに理解させて戴けたと思っております。ありがとうございました。

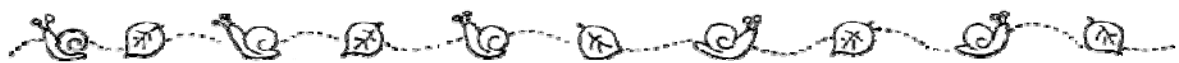
《感想9》

話される姿勢が非常に聴きとりやすく、声の速度と大きさに適切さを感じました。内容もご自身が本当に意味を充分伝えたいこと、どのように伝えたら伝わるかを熟知しておられて、信仰の根本問題のテーマをよく理解できました。伺わせて頂けましたこと、感謝いたしております。又、機会を願っております。

《感想10》

求めつづける… 信仰しつづける…。

「…し続ける」というお話が心に残りました。求めてもすぐに与えられないと、あきらめてしまうので、これから本当に祈りつづける、信じつづけることを大切にしていきたいと思えました。そして何よりもその前に、神父様がおっしゃったように、神さまがわたしたちを愛しつづけて下さっていることを忘れないようにしたいと思えます。



父の日のミサ (6月16日)



お父さんと一緒に侍者をしました

かうしたお仲間

松本善一

葉の陰に穫りはぐれたる大胡瓜
緑蔭の消防自動車談はまる

大西参子

夏の雲重しと思ふふくうはぢ
わの種皿にころがし独りかな

原田實子

しんがりに改札を去る夕暮薄暑
ひと皿のトマトに賑わふ家族かな

仲和子

長話茶房に移す夕立かな
ワッパンを付けてツアアの夏帽子

亀甲泰子

一本の樹に下る不縁の中になて
白薔薇花には代目さ紅を秘め



馬場とよ

引かに抗ひまれず薔薇山崩る
梅雨暗間シマペン聞くかに弥勒の手

赤甲ひろ子

夕立の残して行くに赤い靴

鏡には先にひ笑之と梅雨の月

本林山十真美子

若草両鏡ばかりのジャンヌ像

麦秋や小さき村にも天を望

山石尾純枝

浮かみ出て魂かと思ふ月見草

大に笑む時にはほがすサングラス



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。
宝は大事にしたいですね。

■ 日帰り黙想会

7月18日(木) 10:00~15:30

指導：山内十束神父

費用：3,300円

7月19日(金) 10:00~15:30

指導：山内十束神父

費用：3,300円

■ 一泊黙想会

7月20日(土)17:00~21日(日)15:30

指導：山内十束神父

費用：8,800円

申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

信徒総会 (6月19日)



※ 議事録は、来月号に掲載いたします。

編集後記

梅仕事がやっと一段落。梅酒、梅シロップ、梅干し…。青梅を10キロ、さてこの青々としたいい香りの梅をどうしようか。息子と二人で思案した結果、夏のジュースにする梅シロップを多めに仕込むことにした。息子にとっては初仕込み。彼はこのシロップに自分の名前を付けた。青梅をよく洗って、ヘタを取って、ザルにあげて卓袱台にきれいに並べる。「おいしくなあれ」とおまじないをかけて瓶に詰める。彼が幼稚園から帰ると瓶をふりふり。「もうできた?」「まだまだ時間をかけたらおいしいジュースが出来るんだよ」というやりとりを繰り返し、観察すること1カ月。やっと出来上がり!!よくできました、息子君。「時間ってすごいね」彼の率直な感想なのでした。(あー)